

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4171600639		
法人名	有限会社あすなる		
事業所名	有限会社あすなるグループホームまごころ	ユニット名	第一
所在地	長崎五島市富江町職人307-2		
自己評価作成日	2024年 6月 20日	評価結果市町村受理日	2024年 8月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 7月 2日	評価確定日	2024年 8月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所名のとおり「おもいやりとまごころ」を持ち理念に添ったケアを心がけている。ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し四季を感じながら豊かに過ごす事が出来、職員と入居者がお互いに尊敬し支え支えられながら日々の生活を送っている。行事ある毎にご家族、地域の皆様にご協力頂きながら地域社会の一員として充実した暮らしを続けている。毎日のレクリエーションを通して体力の維持と入居者間の交流も深めている。職員のスキルアップにも力を入れ、入居者・ご家族に信頼され喜ばれる施設づくりに努めている。

五島市富江にある“グループホームまごころ”は、運営者ご夫妻とともに、2019年に就任した管理者を中心に「個人の尊厳を守る」ための勉強会を続けてこられた。職員のケアの質は着実に向上し、ケアマネ・各ユニットの主任・職員が結束し、日々の自立支援、楽しみや役割を増やしていく等の成果に繋がっている。日々の生活では、日光浴・散歩・花見・ドライブ等を楽しみ、ホーム内では洗濯物たたみ・塗り絵・カラオケ・犬型ロボットの世話など、それぞれの楽しみや役割を支援している。食事は3食手作りしており、献立に食物繊維を多く含む食品を取り入れ、野菜をたくさん使用している。水分摂取も勧め、排泄表を利用して排便の確認を行っている。口腔ケアは毎食後、入居者個々の力に応じてご本人がされたり、介助しながら必ず行っており、季節に応じて柚子湯、大みそかの入浴、1月2日の朝に入浴などを楽しまれている。身だしなみはご本人の自由にできるように、鏡・くし・化粧品等を居室に用意するなど、「当たり前前の生活を当たり前でできる環境」をさり気なく整えており、日々「おもいやりとまごころ」の寄り添い（ケア）を続けているホームである。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を大きな紙に書き、常に見えるところに掲げている。全職員が理念を理解、共有し実践につなげている。日常的に理念に沿った介護をしましょうと指導を受けている。</p>	<p>開設時に作られた「思いやりの心でまごころの介護」という理念を大切に、入居者・職員がお互いに手助けし、支え合える関係を築いてこられた。管理者が教育体系を確立し、ケアの質の向上に繋げてこられ、ケアマネ、主任、職員が結束し、根拠に基づくケアができるように努めている。自分の親と違って入居者の心に寄り添い、まごころのこもった介護を続けている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>施設行事の際は地域の方々に参加して頂き交流している。日光浴や散歩を通して近隣住民の方々と交流している。</p>	<p>ホームの隣に「蕎麦屋」ができ、食べに行かれている。日々の散歩などで地域の方と挨拶しており、野菜を頂いている。2023年10月には富江神社祭りの神輿訪問が再開し、獅子舞を楽しむことができた。コロナ以前は“ひな祭り”や“七夕”の時に認定こども園の園児が訪問して下さり、ホームの敬老会（11月11日11時開始）に地域の方々が踊り等を披露してくださっていた。2023年度は敬老会に家族の方々に参加していただき、楽しいひと時を過ごされた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議等の場で認知症の人の行動の理解や支援の方法を話したり、相談にも応じている。外部評価で得た、知識や情報も報告している。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の代表、役所の方、ご家族の皆様に参加して頂き、入居者やサービスの実践、評価への取り組み状況を報告、意見を伺いサービス向上に活かしている。今年度から訪問看護の担当看護師にも参加して頂いている。</p>	<p>2023年からホームで運営推進会議を行い、ホームの取組みや季節行事、避難訓練、研修内容等を報告している。家族、五島市支所職員、富江病院の訪問看護師、地域の方々から市の情報や病院情報、地域情報を教えていただいている。外部評価結果（自己評価）も報告し、「コロナ以前のように、家族や近隣住民の方が参加し、行事が開催できているので良いと思います」等のご意見をいただいた。</p>	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>代表者が市の担当者を定期的に訪問し事業所の実情を説明、報告している。市からの情報も得ている。運営推進会議にも参加して頂き、協力関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議で五島市支所の方が制度の説明等をしてくださる。災害対策に関する相談も行い、避難場所のアドバイスをくださっている。事務長や管理者、ケアマネ等が五島市役所を訪問し、認定の手続き等を行い、アドバイスを頂いている。地域包括職員とも連携し、入居情報を共有している。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ミーティング時、内部研修で繰り返し勉強会を行い全職員が理解している。身体的拘束は絶対にしないという強い意志を持ってケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居者の方々は穏やかに過ごされ、職員も寄り添いを続けている。身体拘束廃止マニュアルに基づく勉強会や、運営推進会議で身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止委員会や研修を継続し、「人間の尊厳」「個人の尊厳」等の理解を深めている。他の施設で起きた事例を基に話し合い、「絶対にしない」という気持ちを再確認し、毎月のミーティングで情報交換している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束はもちろん。心理的虐待、ネグレクトにも重点を置き、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前制度を利用していた入居者がおり、活用は出来ている。制度については内部研修で学ぶ機会があった。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約、改定時には、入居者、ご家族に十分な説明を口頭等で行い疑問点についても丁寧に説明し理解、納得して頂いている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会、自宅訪問、運営推進会議、電話をかけた時など機会があるたびに、入居者、ご家族に意見、要望を伺っている。玄関に投書箱を設置している。</p>	<p>管理者や主任、ケアマネが自宅訪問し、家族に要望等を伺っている。感染状況に際して、「窓越しで」「玄関まで」「居室まで」等の面会方法を検討し、電話やLINEビデオ電話も行われている。主任が通信（写真も掲載）を作成し、日頃の暮らしぶりを報告している。コロナが5類になり、家族の面会時に昼食等を食べて頂いたり、敬老会を含め、ホームの行事に参加して頂けるようになっている。</p>	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、日常時、いつでも職員の意見、提案を聞く体制が整っている。代表者、管理者、職員の関係性が近く、話しやすい状態にある。	運営者（代表者、事務長、管理者）などは職員と会話する機会を日々作り、「何かあっても責任を取るよ」と職員に声かけしている。ユマニチュードを含めた「個人の尊厳」に関する研修を充実させ、日々実践できるように努めている。各ユニットの主任と職員が結束し、日々のレクやゲーム内容も職員のアイデアを活かしており、勤務希望（夜勤・日勤希望等）や有休希望、資格取得希望を叶えるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し労働時間の希望も聞いてくれ個々の就業環境にあった条件の整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合わせた研修の奨励と確保ができており、職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者より同業者との交流、相互訪問の提案はあるが、コロナ禍もあり実現出来ないが、他事業所から転職してきた職員を通してサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の中でこれまでの生活歴、嗜好、趣味などを聞きながら、困っている事、不安、要望に耳を傾け、本人が安心して生活出来る様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちに寄り添い、困っている事不安な事要望等を聞き、ご家族が安心してサービスを利用して頂ける様に十分な話し合いを行い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族との聞き取りに重点を置き、今必要としている支援を見極め、施設で出来る支援の提案もしながらサービス利用に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを共に暮らす家族と考え、一緒に食事したり、作業したり、運動したり共に過ごす時間を大切にしている。出来ない事は支援し、出来るお手伝いをして頂きながらお互いに感謝の言葉が言い合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には定期的に携帯で写真や動画を送ったり、送って貰ったりして、ご家族との絆を大切にしている。贈り物が届いたときは必ず本人に電話して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室など馴染みの場所は本人の希望を聞き、関係が途切れない様に支援している。	生活歴を把握している。入居者同士で馴染みの方が多く、話が盛り上がっている。職員と馴染みの美容室、洋服屋、スーパーに行かれたり、自宅に寄られる方や、家族と一緒に法事、墓参り、自宅で線香をあげる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション・食事など、全員で集合する時間があり、コミュニケーションが生まれ支え合う関係も生まれている。他者の体調を気遣い優しい言葉も掛け合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の経過をフォローし面会に行ったり、ご家族からの話を聞いたりして相談や支援に努めている。退所した方の家族がお花や野菜を持って来てくれる事もある。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望、意向を把握し出来るだけ希望を叶える支援に努めている。	ご本人の「やりたいこと」「食べたいこと」「行きたい場所」等の希望を引き出し、「家族に電話してほしい」「お墓参りに行きたい」「ツワむきがしたい」等の願いを叶えるように努めている。要望に応じて散歩、家事、体操、トランプ、新聞折り、カラオケ等を楽しまれている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランと一緒に作成された基本情報やアセスメントを全職員が共有し、馴染みの暮らし方、生活環境についても本人、ご家族より聞き取りをして把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活ぶりを注意深く観察し会話をして現状の把握に努めている。心身状態を含め気付いた事は日常生活記録に記入している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日常生活で得た情報を元に月に一回の個別モニタリング会議を行い、ケアマネに報告し、本人、家族、主治医、必要な関係者と話し合って意見を頂き、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネが自宅訪問し、家族と情報交換している。遠方の方は電話で話し合い、手紙を添えて介護計画を郵送している。日々のケア内容と共に、歌や体操、歩行訓練等を盛り込み、24時間のケア内容（日課表）もあり、「ご本人ができること」「留意点」も記載している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録に日々の様子を個別に記入し、就業前に記録に目を通すことで職員間で情報を共有、実践や介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所がいかにあるべきか、本人、ご家族のその時々状況に対応して柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かなところなので散歩、日光浴、花見、ドライブ等を楽しんでいる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の殆どが、地域の医療を担う富江病院を主治医にしており、月に一回の往診、月に一回の訪問看護を受けている。入居者の体調異常が見られるときは主治医に連絡し適切な指示、医療が受けられる。	富江病院から往診（月1回）を受けている。2024年4月から月1回の訪問看護も始まり、コロナ感染時も訪問看護師が迅速に対応いただいた。必要時の往診や訪問看護を受けることもでき、職員の安心になっている。通院介助（眼科、歯科等）は主にケアマネが行い、日々の体調変化等の記録を医師に見ていただいている。職員の観察力も高く、早期対応に繋げており、受診記録も作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度から訪問看護師が月に一回、定期的に入居者を訪問することになり、より医療との連携が強まり適切な受診につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人のADL状況、留意点を詳しく説明、文書で渡し、退院時には主治医、看護師より口頭で説明を受け看護サマリを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、急変時に終末期のあり方について本人、ご家族に聞き取りをしている、重度化終末期には早めに再度、本人、ご家族、施設、主治医を交えて話し合いを行い主治医の指示のもと看取りケアもおこなっている。	「最期はホームで」と願う方が多く、医師・訪問看護師の連携もあり、体調変化に応じて家族や主治医と話し合い、職員全員で誠心誠意のケアが行われている。職員も最期の看取り時に「よく頑張ったですね。安心していいですよ」とご本人に声かけし、一緒に生活できた事の感謝の思いで寄り添われている。家族も清拭等をして下さり、寄り添ってくださった。2024年2月の看取りケア研修に4名の職員が参加し、ミーティングで情報交換が行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてはミーティング等で確認しており、対応できるように努めている。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>消防避難訓練を年二回実施し、内一回は消防署立ち合いで指導を受けている。全職員が参加している。自動火災通報システムを導入して近隣住宅への通報がされ地域との協力体制ができています。火災等を未然に防ぐために自主検査チェックを毎日行っている。</p>	<p>非常災害時のマニュアルや関係機関一覧とともに、BCP（事業継続計画）も作成し、毎月のミーティングで共有している。年2回、中村防災と夜間想定訓練を行い、年1回は消防署も一緒に訓練している。自動火災通報装置で町内会長、民生委員、消防団に連絡され、協力体制ができています。各居室は掃き出し窓で、窓から避難できる。災害に備えて水や食料（米、野菜、チョコ、飴、スナック菓子等）、個人用の非常持ち出しバック、緊急時連絡先一覧表等を準備し、防災頭巾も手作りしている。ホームは鉄骨であり、台風時も安全に過ごせている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者を人生に先輩として尊重し個人の尊厳とプライバシーを守りながらその人合った言葉かけや支援をしている。</p>	<p>優しい職員が勤務し、“まごころ”のケアを続けている。トイレ誘導時は周りに聞こえないように小さい声で声かけしている。勉強会でも「個人の尊厳」を守ることを繰り返し確認し、希望を引き出す取り組みを続けている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で本人の思いや希望を引き出す言葉かけをして常に自己決定出来る様に支援している。選択で迷っている方には職員本位にならず、本人の思いを大切に助言している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日をどう過ごしたいか本人の希望を聞き希望に沿った生活が送れるように支援している。一日に何度も散歩する入居者にも同行している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみは本人の自由に出来る様に鏡、櫛、化粧品等を居室に用意している。一日に何回も着替えをされる方もいる。</p>		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を担当した職員が献立を任されているので用意された旬の食材を活かしながら入居者の好みを聞いて食事づくりをしている。食材の下処理を手伝ってもらったり、テーブル拭きなどをして頂いている。	3食とも手作りで、「ここは食堂みたい」「美味しい」と好評で、職員も一緒に食卓を囲んでいる。梅干しやラッキョウ、ドレッシング、ボン酢なども手作りで、入居者の方々もモヤシの根取り、インゲンの筋取り、ツワの皮むき等をして下さる。職員や近所の方が手作りする「かんころ餅」も楽しまれている。退院時に流動食だった方が、普通食を食べられるまで改善できた方もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は本人の希望、普段の摂取量を考慮して提供している水分量は定時の水分補給を2回、夜間に水分準備、及び水分補給それ以外にも要望があるときには提供している。コーヒーや牛乳などを常飲していた方は入居後も習慣を続けて貰っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、個々の力に応じて本人がされたり、介助しながら必ず行っている。毎晩、入れ歯の洗浄を行い、週に一回コップ・歯ブラシを消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用で、早めの声掛けで排泄の失敗を減らす取り組みを行っている。夜間オムツの方も昼間はトイレでの排泄が出来る様に支援している。	排泄が自立し、布の下着を使用する方もおられ、排泄表を用いてトイレ誘導している。排泄の失敗や不快な思いが軽減されており、夜間頻尿の状況を含めて観察している。退院時におむつ使用だった方も、トイレに座れるように努め、トイレまでの移動、立ち上がり、ズボンの上げ下げ等ができるよう生活リハビリを続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を多く含む食品を取り入れて野菜をたくさん使用している。水分摂取も勧め、排泄表を利用し排便の確認を行い便秘気味の方は便薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は決められているが、希望があれば入浴日以外でも入浴できるように支援している。楽しみにしている入浴時間を大切にしている。	入浴好きな方ばかりで、湯船に入られる方も多い。入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれ、できる範囲は洗っていただいている。季節に応じた入浴（柚子湯・大みそかの入浴・1月2日の朝に入浴）を楽しまれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じて日中でも居室でゆっくり休息出来る様に支援している。自宅で使用していた寝具や枕を持ってこられた方もいる。温度や湿度にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、毎回手渡しをして服薬確認を行っている。お薬説明書で薬の目的、副作用、用法用量を理解し症状の変化を観察している。異常があればすぐに主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることのお手伝いを通して役に立つことの喜びを感じて貰っている。ぬりえ・カラオケ・散歩・人形の世話・犬型ロボットの世話などそれぞれの楽しみ事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	日常的には玄関先での日光浴・散歩をされており、気候に合わせて花見・ドライブに出かけている。ご家族と一緒に出かけるかたもいる。	玄関先のベンチで日向ぼっこや花見を楽しまれ、日に2~4回、散歩をされる方もおられる。自宅周辺のドライブや只狩山の花見（桜・つつじ等）にお弁当持参で両ユニット一緒に行かれており、“世間を眺める”機会が今も作られている。外出が難しい方も窓越しに景色を眺め、リラックスされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方が自由にお金が使えらるよう支援している。買い物代金を職員が行い本人の希望を叶えている。お世話になった片へのお礼や食べたいもの、必要な物を代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	送り物が届いたときには本人に電話をかけていただき、直接お礼が言えるように支援している。LINEを利用しビデオ通話される方もいる。		

自己	外部		外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・色・湿度については不快にならないように調整し、配慮に努めている。季節毎には玄関や居室の入口を飾りつけ季節感が分かるように工夫している。季節の花も飾っている。	日々ゆったりとした時間が流れており、家事も一緒にされている。第一ユニットは天井が高く、ソファも複数置かれ、畳などで洗濯物をたたみ、雨の日以外は両ユニット合同で体操やカラオケを楽しまれている。第二ユニットは台所とリビングが隣接し、職員とトランプ等を楽しまれている。廊下の幅が限られ、車いすの離合時は譲り合っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置きソファに座って会話されたり、好きなテレビを観たり食堂テーブルで作業、趣味、ゲームをするなど思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真・装飾品などをご家族に持ってきていただき、飾っている。お花が好きな方はお花をいっぱい飾り、ラジオ・人形・犬型ロボットなどや、仏壇を置かれている方もいる。	自宅で使用していた寝具や枕を使われている方もおられる。仏壇に職員がお茶とお水を準備し、ご本人も手を合わせている。犬型ロボットとおしゃべりをされる方、裁縫道具を持参し、ほつれ直しをされる方、マフラー等を編まれる方、朝4時にラジオでお好きな歌を聞かれる方もおられ、思い思いの居室になっている。居室にテレビの配線がなく、設置できないが、今後も検討予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・フロアに手すりを付け、安全に移動、自立に向けた歩行訓練が出来る様になっている。		